

リスペクトと歩む女子サッカー

～女性活躍の未来、北海道女子サッカーの未来～

2023 年 2 月 11 日 (土) 14:00 ～ 16:00

会場 札幌ドーム × オンライン視聴

コンサドーレ・エスポラーダカップ附帯イベント

対象：北海道内の女子サッカー選手・審判員・指導者・スタッフ・チーム関係者・選手保護者・協会関係者・女子サッカーに関心のある方

主催 公益財団法人 北海道サッカー協会

主管 公益財団法人 北海道サッカー協会 女子委員会・技術委員会

後援 公益財団法人 日本サッカー協会 (J F A), 札幌市

主旨

サッカーファミリーにとって、リスペクトとは、「常に全力を尽くしてプレーすること」、サッカーに関わるすべての人やモノを「大切に思うこと」であり、日本サッカーを支える重要な価値観です。しかしながら、サッカー界にも暴力・暴言・ハラスメントがときに表出し、リスペクトについて今一度考えをめぐらせる機会の必要性を感じるところです。とりわけ、サッカーを通じて女性が輝く社会を目指す J F A が掲げる『なでしこビジョン』の根底には、性差から生じる差別に対して、リスペクトの本分をもって乗り越えようとする姿勢があり、女子サッカーに関わるすべての人にとって、リスペクトはより大きな意味を持ちます。

そこで、2022 年度の女子サッカーデー事業として、リスペクトをテーマとした講演会をコンサドーレ・エスポラーダカップの附帯事業として実施いたしました。女子サッカーからリスペクトの気運を高め、多くのサッカーファミリーへ浸透させていくことで、女子サッカーの価値を高め、普及につなげることを目的とし、また、日本の女子サッカーを牽引してきた WE リーグ初代チーフ岡島氏と JFA 今井氏のお考えを直接拝聴する機会とともに、道内サッカー界を支える皆さまを聞き手としてお招きし、それぞれのお立場からのご意見により、北海道における女子サッカー活性化のヒントを得ることも期待しました。

14:00

オリエンテーション

中川 綾子 (公財) 北海道サッカー協会 女子委員長
※本講演司会

ごあいさつ

鷲津 裕美 (公財) 北海道サッカー協会 副会長

14:05

ご講演①

『リスペクトと歩む女子サッカー』

今井 純子氏

JFA リスペクトフェアプレー委員長 兼 女子委員会副委員長

カターレW杯では、その活躍とともに、ロッカールームの美しさやサポーターのゴミ拾いなど、日本のフェアプレー精神が大きくピックアップされた。日本は、W杯にはじめて出場した 1998 年より前から、フェアプレー賞を何度も受賞しており、成績の伴わない賞を授けられることもあった。だからこそ 2011 年の女子W杯で優勝とフェアプレー賞を獲得 - フェアで強いチームを実現 - できることに大きな意味がある。女子は 3 つの年代のW杯で優勝しているが、いずれもフェアプレー賞を受賞しており、一目置かれる存在である。世界大会開催時には、日本選手やスタッフの礼儀正しさと誠実な態度により愛されて応援されるチームになっており、また、他の国の審判の方が日本の試合を担当することを喜んでくれている。それが日本の誇り。フェアプレー賞は、カードが少ないという減点だけでは獲得できるものではない。選手が全力で戦うことや相手や審判に対する敬意、関係者やサポーターのプラスの行動により獲得できる。JFA では、昨年、女子の育成の大会でキャプテンミーティングを行い、リスペクトに理解を深めるお話をさせていただき、そのうえでリスペクト宣言のパネルを交換するなどの取り組みを行った。若い世代からリスペクトについて考える機会が重要だと考えている。

一方、リスペクトの対岸にある暴力・暴言は根絶できていない。JFA では相談窓口を設けているが、目標という言葉で終わらせることなく、現場に届けられるよう、予防と啓発に力を入れ、基盤の整備を進めるべく、指導者養成の内容に盛り込んだほか、ウエルフェアオフィサー制度をはじめた。「しない、させない、許さない」は、関わる人全員の役割。勇気のいることだけれども、大きな問題 - 悪いことになる前に、気になったことを伝えることが大事。選手も含めて、誰かが困っていたら声をかけてほしい。女子サッカーには、



JFA テクニカルハウスの一員として、指導者養成・普及・育成・強化に長年尽力。何事にも真摯な姿勢がスポーツ諸科学への習熟と幅広い人脈形成につながり、現職へ。国体少年女子種目新設やリーグ戦改革、WE リーグ創設など、日本の女子サッカーの堅実な前進を支えている。比較文化論をベースとした人文科学の造詣も深い。

チームの仲間がいるから、大好きなサッカーがもっと楽しくなる。

大切な仲間。

家族や友だち、たくさん応援してくれる人たちがいるから、

サッカーが続けられる。

ボールやシューズをしっかりと手入れし、

練習場にはゴミを残さない。

サッカーには敵はいない。対戦相手は敵じゃない。

自分たちの力をためし、サッカーを楽しむための大切な仲間。

試合のはじめに相手の目を見てしっかりと握手する。

リスペクトの証(あかし)として。

レフェリーがいなくてちゃんと試合ができない。大切な人。

ルールを守ること大切なこと。

ルールがあるからサッカーの試合は面白い。

スピーディーで、フェアで、タフにプレーしよう。

常に全力でゴールをめざす。勝利をめざす。

それがサッカーという大好きなゲームに対するリスペクト。

女性審判への暴言などの問題はありますが、「なでしこらしさ」という価値がある。佐々木則夫委員長を中心に女子サッカーが先頭にたつてリスペクトある試合環境を実現したいと考えている。

JFA は、2050 年にW杯で優勝することを「約束」として掲げている。私たちは世界一になるために必要なのは「世界一サッカーで幸せな国になる」ことだと考え、その道筋として「JAPAN' S WAY」* という考え方を整理した。競技力とウエルビーイングの二つのピラミッドは、世界では早い年代で分かれていると認識されているが、日本は、上を目指すことと生涯スポーツとして楽しむことの二つの山が重なりあうことに価値を置き相乗効果を生むものと考えている。多様性という「みんなのサッカー」を大事にすることでもっと豊かに、大きく、強くなれる。あの人のサッカーを「みんなのサッカー」にしていって試みを女子サッカーでも大事にしていってほしい。

*<https://www.jfa.jp/japansway/>

(質疑応答から) みんなに応援される女子サッカーについてご質問があり、代表だけではなく、地域でも、選手の普段のふるまいから応援されるようになることも含まれているとご回答いただいた。

『WE リーグの取り組みとチームスポーツのメリット』
岡島 喜久子氏

WE リーグ初代チェア

中学2年生からサッカーをはじめ、第1回から皇后杯に参加しているが、第5回大会で対戦した美香保リーボンズのキャプテンの佐藤さんがこの場にいらっしやる。このご縁を嬉しく思う。また、副会長が二人いる地域協会は北海道だけ。今日は、WE リーグの話とともに、サッカーをする女の子の仲間を増やすためにサッカーをしたらどんなよいことがあるかも伝えていきたい。

WE リーグの理念は「女子サッカー・スポーツを通じて、夢や生き方の多様性にあふれ、一人ひとりが輝く社会の実現・発展に貢献する」。サッカーだけではなくあらゆる女性スポーツの力をあわせて理念の実現させ、さらに、スポーツの枠を超えて、社会で女性が活躍することを理念としている。クラブの参入基準として、スタッフを女性50%以上、意思決定をする役員・コーチングスタッフに女性を1名。試合会場に託児所をもうけることがある。WE リーグでは選手がC級ライセンスを取得できるようになっている。現在、佐々木則夫監督を除き、優勝チームの監督は女性。

また、クラブはWE ACTION というクラブの理念推進活動を行ななければならないとした。フードバンクやパラスポーツ、児童養護施設子どもたちとスポーツの取り組みなどを各クラブで取り組んだ。選手が社会課題を学び、選手が率先して地域と向き合う経験に意味がある。セカンドキャリアへの学びにもなる。

WE ACTION MEETING での取り組みも紹介したい。選手とクラブとパートナーと一緒に、ジェンダー課題を共有し深掘りする機会を設けた。その中で「日本の女子の自己肯定感が低すぎる問題」「大人がバイアスを育てている問題」などがあげられ、気づきとともに、解決に向けた議論を行った。

(動画参照*)「ガラスの天井」とは、女性が昇進のときに見えない壁に阻まれるときに使われる言葉。これを象徴的にトロフィーとして再構築した。歴史的にみるとトロフィーは、戦争の勝者が鉄を溶かして記念としてつくるものだが、ガラスを選んだ。トロフィーを製作するプロセスにおいて、コンセプトの製作やトロフィーの製作、動画のプロデューサーなど女性が行い、女性活躍の象徴となった。
*<https://www.youtube.com/watch?v=J1ALDt01Tsk&t=4s>

チームスポーツのベネフィットについてお話したい。まずはフィジカルにおいて、サッカーは腿の筋肉が鍛えられるが、基礎代謝に大きな影響がある。そして心の面では、自己肯定感の増加が得られる。練習の結果の積み重ねが自信につながる。チームとして仲間意



2021年9月に開幕した日本初の女子プロサッカーリーグ「WE リーグ」の初代チェア(理事長)を務めた。女子サッカー黎明期に選手として国際大会に出場したアスリートのキャリアと、日本、シンガポール、アメリカの金融機関で38年間活躍したビジネスパーソンとしてのキャリアを併せ持つ。サッカー界でも金融業界でも女性というだけで行く手を阻まれそうになったが、情熱と行動力でいわゆる「ガラスの天井」を突破した。著書に『心の声についていく』(徳間書店)がある。



識ができる。そして、負ける経験が最も重要だと考える。社会人になって挫折すると立ち上がれない人がかなり多い。負ける経験があると次にどうしたらよいかを考えることができる。全国大会ではなくとも、大切な試合があると思うが、その真剣な試合経験が、試験などであがらなくなるなどの力になる。サッカーは、練習する努力と成果として経験が積み重なり、努力の価値を理解することができる。強豪アメリカ代表の選手ミア・ハムは、自分を犠牲にしてもチームを一番に考え、ワンバックは負けたときに何を感じ何を考えたのかを思い出すためにロッカーに負けたときの写真を飾っているという。私は金融機関で働いていたが、会社=チームのメリットのために働くことを貢献度として認めていただけると実感している。チームスポーツを経験したおかげだと思う。そのメリットをぜひ保護者様に知っていただきたい。

今、バスケやバレーの大会では、女性のファンが多いが、WE リーグでは男性が多い。観客数を増やすためにも普及は重要だと考える。私たちは開拓していきたい。

(質疑にて) マーケティングのターゲットについてご質問があり、大人の女性のファンを開拓していくことについてご回答があった。一方、WE リーグの試合と自分たちの試合と重なる育成年代にも観戦してもらえる機会を設けてきたいと補足いただいた。

大岩 真由美氏

(公財)北海道サッカー協会 副会長



今井さんとは国際審判員の活動をさせていただいている際に一緒させていただいたが、日常でもフェアでフラットな方だと印象を持っている。普段からリスペクトを意識しているが、今回のご講演では改めてリスペクトがしっかりと心にささった。私自身は、リスペクト=尊敬ではなく、尊重であると思っている。ありのままを大切に思うこと、受け止めることが大切だと感じている。審判の話題を出していただきましたが、誰もがサッカーに関わることが当たり前であること、当たり前の価値観になってほしいと思う。今回の要項ではリスペクトは重要な価値観であると記載されているが、皆さんにとって、これを当たり前の価値観にしていればと思っています。

石井 肇氏

(一社)ノルディーア北海道 ゼネラルアドバイザー

本講演と同時に、コンサドーレ・エスポラーダカップが開催されている。様々なカテゴリーがある中で、少年団母の部に9チーム参加し、実に楽しそうにボールを蹴っていました。今井さんのご講演で暴力暴言についてのお話がありました。サッカーはチームスポーツであり常に相手を見て判断するスポーツ。指導者にも人と人との関わり合いをより重視する姿勢が大切だと思っている。岡島さんのお話で同感することは、負ける経験。レベルが高くなればなるほど、栄光と屈辱の落差が激しい。叩きつけられる場面に、次のチャンスを持つメンタルの強さは、競技を続けていくうえで重要。現在、北海道協会の専務理事という立場でもあり、本日のご講演の主旨を伝えていきたい。なでしこリーグには選手へのスカウティングの課題もある。それぞれの選手のレベルにあったリーグでプレーできるよう、大人たちが環境を整えていきたい。



聞き手より

水上 玄太 氏

(一社) エスポラーダ北海道スポーツクラブ GM



女子サッカーデーター事業ではあるが、私たちはフットサルのチーム。自分自身は選手と GM 兼務しながら活動をしている。本日、コンサドーレ・エスポラーダカップをみて、フットサル人口はいることを感じたが、イルネーヴェはまだ選手の人数も少ない。選手を目指すことのできる環境を用意することも私たちの使命であると感じている。エスポラーダは、北海道出身の選手で構成されている。北海道の選手の皆さんに目指してもらええるチームとして、組織としてよい環境を整えていきたい。フットサルとサッカーと連携し、フットボール界全体で協力して盛り上げていきたい。私たちもその一助となるようがんばっていききたい。

浮田 あきな 氏

(一社) コンサドーレ北海道スポーツクラブ 女子サッカーグループダイレクター

2015 年にリラ・コンサドーレが立ち上がって今年が 9 年目。監督として 4 年活動し、現在ダイレクターとして 2 年目。今までは育成年代のチームといわれてきたが、2 年連続でなでしこリーグ 2 部入替戦予選大会に参戦した。まだ厚い壁はあるが、私たちは、なでしこリーグ、さらには WE リーグを目指し、そして上位に定着するチームとしてコンセプトををかけている。競技だけではなく、地域貢献も行っていきたい。女性選手が地域に貢献できる活動の案を練っているところ。様々なご協力をいただければ幸いです。



(オンライン視聴者からのご質問) 北海道の WE リーグチームに参入してほしいですかというご質問をチャットでいただき、最後に岡島様にご回答をいただいた。

北海道は、協会として女性活躍を実現していращやるので、ぜひ参加いただきたいが、財政基盤とスタジアムという参入条件の障壁となっているチームが多いことは伝えなければならない。この壁を乗り越えて参入にチャレンジしていただければ。今回、コンサドーレ・エスポラーダカップをみさせていただいたが、フットサルは、普及のカギになると感じている。今後も取り組みをすすめていただければ。

さいごに

鷲津 裕美 (公財) 北海道サッカー協会 副会長



JFA 女子サッカーデーは、世界で一番フェアな国になろうをスローガンにかけているが、そのために何からはじめるのか、ヒントをたくさんいただいた。まず「愛されるチームになろう」、それは少し意識を変えること。そして暴力暴言の根絶として、「しない、させない、許さない」ことを実践し、「関わる人全員の役割である」と認識すること。当たり前として捉えていることに少し疑問を持っていくことが必要だと感じた。北海道でもまだまだ気軽に女の子がサッカーやフットサルを楽しめる環境ではない。本日のイベントが誰もがサッカーを楽しめ、サッカーで輝ける社会につながれば幸いです。今年開催される女子 W 杯を皆さんで盛り上げていきましょう。

最後に、御登壇をいただきました皆様、会場・ご視聴されている皆様、イベントを準備していただいた皆様に感謝申し上げます。



司会 中川 女子委員長

※本講演は、多くのフットボールファミリーにご視聴いただけるよう後日限定配信をいたしました。

アンケートから

- ・ご講演いただいたリスペクトに関しては女子サッカーに限らず、すべてのサッカーファミリーひいてはすべてのスポーツ界において優先される事項であり、普段の活動においても常に意識しているつもりです。すべてのカテゴリーにおいて優勝経験があるのが日本女子サッカーという点は意外に気が付かず誇らしい気持ちになりました。当クラブにも小学生年代には女子選手は数名所属していますが中学生年代で活動の場を失います。部活・町クラブ等で女子サッカーの活動がより活発になるように地域全体で盛り上げていく必要性を感じました。(指導者)
- ・お話にあったとおり、「負ける」という経験はスポーツをしていなければできないことだと改めて感じました。これからは「負ける」経験もそのあとにいかしていけるよう考えながらスポーツを楽しんでいきたいと思いました。(選手)
- ・WE リーグのトロフィーの動画の内容、ストーリーが女性活躍につながり、とても心をうたれました。(選手)
- ・とても勉強になりました。リスペクト=尊重であったり、ありのままをありのまま受け止めるメンタルを身に付けていきたいと思いました。(保護者)
- ・北海道を代表する女子チームに携わる方々の貴重なお話を聴かせていただき、非常に勉強になりました。皆さま共通していたところでは育成に関してやサッカーを続けていけるような環境づくりという点をお話をされていてたという印象がありました。(保護者)
- ・サッカーはボール一つでいつでも遊ぶことができます。やる場所を含めて諦めてしまう環境を作っているのは大人なので、我々大人が環境を与えるるようにワンチームでがんばりましょう！(指導者)

ご講演後、御登壇者の皆様に加え、上田技術委員長、エスポラーダ北海道イルネーヴェ監督の菅野様を交え、北海道の女子サッカー普及にむけてディスカッションを行いました。様々な事業や取り組みがボランティアスタッフに支えられているが、仲間を増やすことが環境整備の第一になるとの議論があり、指導者を増やすための建設的な意見が交わされました。また、カターレ W 杯で女性審判が活躍したことを受け、審判員の育成についても話がおよびました。短いながら立場を超えて率直な意見が飛びかう濃い時間となり、北海道サッカー協会とともに、北海道を代表する 3 チームが今後も継続して連携したいとして終話しました。

